



「はての浜」で小さな魚を追いかけ、水遊びやスノーケリング、貝殻拾いを楽しもう。子どもだけでなく、大人も夢中になっちゃいます。グラスボートで往復すれば、楽しさ倍増。満足度100パーセントのスポットだ。

飲み物よし、お弁当よし。ピナサンダルに履き替えて、娘はシャツの下に水着も着て、「はての浜」に出発。久米島といえは、「はての浜」だ。島の東沖合7キロ、海に浮かぶ真っ白い砂州の長さ(7〜11キロ)は東洋一といわれている。

船に乗るや娘はグラスボートから見る海中景色に夢中。船底のガラスを通して、色鮮やかな魚たちはもちろん、海底の砂模様まではっきり見えるのだ。「このあたり、モズクの養殖をしています」

船長さんとはときどき船を止め、「はての浜」に着くまで海中案内をしてくださる。

「はい、ここは水深1〜5メートルです」

「シマシマのおおきなキレイ」

「黒と白の輪の魚はロクセンスメタイですね」

「おおきなビルみいだね」、

# 360度、 エメラルドグリーンに 囲まれた はての浜



グラスボートの底をのぞき込む。思わず手が出てしまう。海を案内してくれたのは船長の仲村 誠さん。



とサンゴを指さす娘。たしかに、ボコボコと穴の開いたサンゴは、高層マンションかオフィスビルかといった具合で、群がる小さな魚たちが人間くさく見えてくる。

「お魚さんは、大きな魚に食べられないようにサンゴの際に身を隠したり、餌をとったりするんだよ」

なんていう説明は聞いちゃいなくて、5歳児は大きな声を張り上げる。

「あ！すごい、いっぱい、ちいさなおおきな」

一瞬、目をこすりたくなるほど、整然とした点々の集まり。

「めだかの学校は、海の中よ」

「きょうはさあ、そつえんしきなんだよ」

そうか、卒園式。あのサンゴは、きっと学校じゃなくて保育園なんだね、